
- 予知夢 -

プリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

- 予知夢 -

【コード】

N2503C

【作者名】

プリン

【あらすじ】

僕にはある能力があった。それは世間がいう『正夢』や『予知夢』
というもの...

過去 - 1 -

僕は昔からある能力がそなわっていた。
その能力を世間が『正夢』や『予知夢』と呼ぶもの。

初めてその能力に気付いたのは小学5年生。

中学生までは楽しい夢ばかりだった。
でも中学1年の冬…
母さんが自殺する夢を見た。

僕の夢は実現する。
今までは変えたことのない夢だったから正直不安はあったが母さん
を助けよう。
それが頭に浮かび
とりあえず話を聞いてあげればと思い母さんを探した。

しかし見当たらなくて仕方なく父さんに聞いた。
でも父さんはいつも母さんを虐めるから本当は聞きたくはなかつた
んだ。

父さんの話しによれば母さんは家をとびたしていったらしい。

僕はすぐに玄関から外に出てガレージをみたが車はなかった。

まずい…

そう思うけどもうどうしようもない…

母さんは携帯を持っていないから連絡手段もない。

僕はその場で座りこんでしまった。

警察に電話もしてみたが

「もしかしたら帰ってくるかもしれないよ。いなくなって時間が経つてるならともかく先程のことなんですよ？もし明日までに帰ってこなければまた電話してください」と言われた。

明日じゃ間に合わない。

僕がみた夢は見て起きた日には必ず起こるんだ。

小学5年生から今日この日まで予知夢を見なかったことなどない。そして外れたこともないのだ。

今日ばかりは外れてくれと祈った。
もう祈る以外に方法がなかった…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2503c/>

- 予知夢 -

2010年10月9日02時09分発行